

### ③ 横浜人形の家

金沢英樹

一——設立の趣旨：横浜のイメージを活かす

横浜は、ヤングにとつては「洗練された憧れのマチ」、ミドルやシルバーにとつては「世界へ開かれた日本の窓口であったマチ」。

世界有数の港をもつ横浜は、今なおエキゾチックなイメージをもつ人が多い。特に、横浜以外の人にその傾向が強い。これは、開港以来果たしてきたわが国における横浜の役割を示しているものであり、横浜にとつてこのイメージは、貴重な資産といえる。

横浜人形の家は、有名な真珠王御木本幸吉翁の秘書兼通訳であった大野英子さんが、生前収集した人形を一九七七年九月横浜市に寄贈されたのが発端である。

大野さんは、日本で最初の通訳ガイドライセンスをとつた人と言われており、アメリカのルーズベルト大統領に単独会見した経歴をもつほか、国際的なボランティア活動に力を尽した人

である。

この大野人形コレクションの特色は、①世界七六カ国と広い範囲にわたっていること。②人形の数が一九八一点と多数あること。③収集された人形の内容に偏りがなく、その国、その土地の民族色豊かな衣裳風俗を表わしていることである。

横浜人形の家の設立にあたっては、先に述べた横浜のイメージに、当館の人形コレクションの特色がオーバラップする部分が多く、国際色豊かで文化の香り高い観光施設として位置づけることとした。

なお、人形の寄贈を受けた一九七七年当時は、国際交流と観光振興を併せ担当する横浜市経済局国際交流課がこの仕事を所管、翌一九七八年三月に中区山下町の産業貿易センタービルの九階にある横浜国際会議場の一室（八五平方メートル）を改装し、人形展示室を設置した。この管理については、当初財団法人横浜工業館、その

- 一——設立の趣旨：横浜のイメージを活かす
- 二——運営の理念：血のかよった国際親善
- 三——施設の内容：静と動の世界
- 四——イベントの展開：攻めの活動
- 五——来館者の状況：周辺への波及効果
- 六——今後の課題・提言：深める・広げる

後一九八六年六月の新しい横浜人形の家の開館直前まで財団法人横浜市海外交流協会がその任にあたっていた。

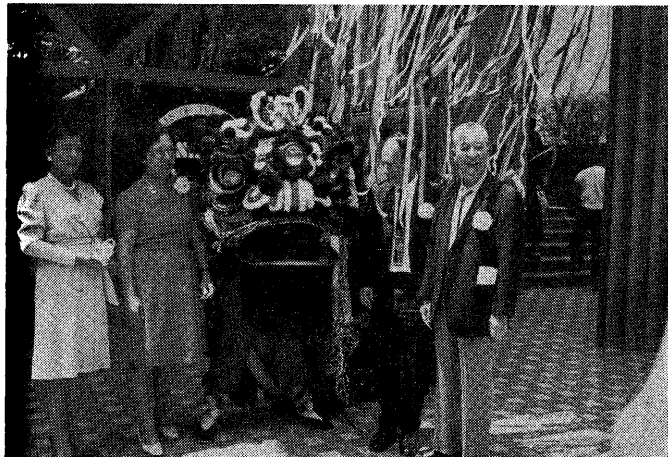
二——運営の理念：血のかよった国際親善

新しい人形の家の建設にあたっては、横浜市経済局貿易観光課（前国際交流課）が所管し、一九八一年から移転構想・基本設計・実施設計と計画をまとめ、一九八四年秋に着工し、一九八六年春に竣工。同年六月一日開館した。

この管理については、社団法人横浜国際観光協会があたっており、組織を強化した中で、館長には、世界各地の風俗習慣の実情に精通している兼高かおる氏をむかえ、本格的な運営にとりくんでいる。

今から六〇年前にさかのぼる一九二七年三月三日、横浜をはじめ日本全国の小学校で、『青い目の人形』を歓迎する行事が催された。当時

写真一 「横浜人形の家」開館式



アメリカでは、日本をはじめ東洋系の人たちによるアメリカ人の職場の浸蝕が著しくなってきたことに端を発し、カリフォルニア州をはじめアメリカの多くの州で日本人排斥の運動が広がっていった頃のことである。

こうした事態を憂えた親日家の宣教師シドニー・L・ギュリック博士は、日本の伝統的な「ひな祭り」の行事にちなんで、アメリカ全土の婦人団体等によびかけ、手づくりのアメリカの人

形を日本に贈った。日米の緊張緩和、相互理解に少しでも役立てようというムーブメントである。各人形はスペシャルバスポートを携え、約一万三千体の大半が、横浜港に到着し、全国の小学校等に贈られた。

翻って、現在、日本をとりまく国際環境は大変きびしいものがあるが、その根底には相互の文化面での理解が不十分であるとの指摘がなされている。とりわけ、文化の受信・吸収にばかり血道をあげていたわが国は、日本の現在の文化を世界へ発信し、理解を広げていくことが求められているのではないか。

小さな小さな人形ではないが、そこにはその国、その土地特有の衣裳風俗があらわされているばかりではなく、人間生活の縮図とも言える人間の「おもい」がこめられており、人形を通じて、情操を高めるとともに、海外各民族の生活や感情を理解する一助となる。

当館の運営にあたっては、人形を通じて国際親善・相互理解を深めることを最も重要な方針の一つとして位置づけている。これに加えて、国民の文化志向に対処して社会教育・情操教育の場としての機能を高め、結果的には、横浜の観光経済とりわけサービス産業の振興に寄与できるような活動を展開していきたい。

### 三 施設の内容：静と動の世界

人形の展示はじっくりと見つめるもの。静なる世界である。産業貿易センターにあった頃は、まさに展示のみであった。

人形には、また別の世界がある。人形劇である。動かしてはじめて人形が生きてくる世界。古くは、人形浄瑠璃、文楽そして「チロリン村とクルミの木」等一連のテレビ人形劇。現代人形劇だけでも身近に生のものを市民や観光客が見ることができれば素晴らしい。「動」の世界である。

#### ① 展示の考え方：人形のオリンピック

同じ国にありながら、地形その他の関係から、各地方さまざまな言語・風俗をうみだしたスイ

写真二 ジュモール作ビスクドール



スの人形。大きなカウベルが印象的である。暖かそうなウールの服を着たカナダのエスキモー人形。彩やかなサリーをまとったインド女性の人形。たくさんの貝を使ってスペイン風に作られたフィリピンの人形。白いコアフをかぶり、木靴をはいたおしゃまなオランダ人形。スカートがふつくらとしてティーポットの保温に使われるソビエトのおばあさん人形。江戸後期に作られた日本の古今雛。さながら人形のオリンピック。これら多種多様な人形は「人間の生活を映す」という観点から、次のような分類で展示することとした。

#### ⑦世界の人形：「遊び」「集い」「暮らし」

世界の人形は、開館当初一九六八点あった。このうち七〇〇点程度展示できるスペースがある。これを、どういう考え方で展示するか。人形の歴史を示す展示、人形の生地を示す大陸別展示、人形を作る多岐にわたる素材別展示。いろいろな手法があるが、人形は人間の生活を端的にあらわすところにその本質があるのではないか。そこで、人間の生活のさまざまな態様に応じて「遊び」「集い」「暮らし」という大分類を作り展示した。

広い意味で「生活」の中には、「美」の追求、あこがれがあり、「人形の美」のコーナーも設けた。また、横浜という地域に根ざしたミュー

ジウムということで、「横浜と親善人形」のコーナーもある。

#### ⑧日本の人形：「憩い」「願い」「喜び」

日本人形は、内在する美に特色があり、静的な表現の中に、日本人の心の営みが結晶している。一一八一点のうち五〇〇点程度を展示できるが、伝統的な日本人形の分類との対比の中で、次のような展示をすることとした。日本全国から人が集まってくる横浜、各県それぞれの「郷土人形」の中に、「安らぎと憩い」をおぼえることができる。「御所人形」など「古典人形」には、子どもの健やかな成長を「願う」心の結晶をみることが出来る。そして「雛人形」や「雛道具」の中には、健やかに成長した子どもへの「喜びが」秘められている。とりわけ「けし雛」は日本の軽薄短小の技術の原典ともいえる伝統的な職人の丹精なる技、「匠み」の世界が展開される。

#### ⑨人形劇場：ひよっこりひょうたん島

一九八二年三月に策定された「人形の家移転構想」の中で、展示室以外に魅力ある「動」の世界「人形劇場」をとり入れた。

生の人形劇は、一般に見る機会が少ないが、テレビの普及と共に「チロリン村とクルミの木」から始まって、「ひよっこりひょうたん島」で

クライマックスに達したテレビ人形劇は、人形劇の魅力を広めたという意味で特筆すべきものがある。

この人形劇場を、多くの市民に親しみやすいものにしたという願いをこめて、一九八五年十一月に愛称募集をした結果、九、五〇〇通あまりの投票の中から、「あかいくつ劇場」というニックネームがつけられた。

#### 四——イベントの展開：攻めの活動

それでは、一体、人形の家という施設・機能場を通じて、現在どんなアクティビティを展開しているか。

#### ①国際親善活動：空を飛んだ人形たち

外国人の来館者が自分の国の人形を発見した時、故郷を遠く離れた人が自分の生れ育った土地の人形を見つけた時、ほっとして笑みをうかべる。人形には、人の心を和ませる何かがあるのかも知れない。

一九二七年の「青い目の人形」親善運動がアメリカから起きた。その背景に、人形の生産活動が、当時、世界の中でアメリカを中心に行われていたにせよ、人形というシンボリックな形で世界平和への願いをこめてボランティア活動



が展開されたことは事実である。スケールは異なっても、今度は日本から、横浜から現代版「親善人形大使」を世界へ向けて派遣することとなったのが一九八三年の春であった。横浜市民等の手づくりの人形六百体余をたずさえ、ハンブルグ・モナコ・リヨンと駆け足ではあるが親善活動を展開した。事前折衝では、日本から、また人形の売込みに来たのではないかというエコノミックアニマルのレッテルをはがすのに時間

がかかったが、実際に贈られた人形がこれを見事に解決してくれた。

翌年には、バンクーバー・ポートランドそしてサンディエゴと親善の輪をひろげていった。横浜の姉妹都市サンディエゴでは、事前折衝の過程で、偶然、一九二七年の「青い目の親善人形」の提唱者の子息シドニー・L・ギユリック二世(当時八二歳)に巡りあうことができ、人形使節派遣時には、老体をおしてシヨートスピーチを聴くことができた。

こうした活動の結果、横浜人形の家のオープン時には、アメリカやドイツから二〇人を超える自主的ミッションが当館開館を祝ってかけてきた。

## ② 人形劇の上演：市民参加・交流の場

人形劇は、幼児のためだけのものではない。といっても、現状はやはり小学校低学年や幼稚園へ通う年齢層を対象にするものが大半である。

横浜人形の家では、開港記念行事の一環として、広く市内・県内の人形劇グループに呼びかけ、メルヘン人形劇フェスティバルを一九八六年六月一日から八日間にあわせて開催した。これに参加したグループの大半は、お母さん方であり、中には学生や社会人の人も含まれていた。

写真一 4 リヨンをからギニョール人形贈呈



その後当館の「あかいくつ劇場」では、前記フェスティバル参加者の有志が中心となって、毎月定期公演をつづけている。横浜人形の家の入館者が多いこともあり、多くの人たちが、生の人形劇に接することができるようになった。昨年九月には、横浜の姉妹都市リヨンからギニョール人形劇団を招請し、楽しい人形劇を公演した。今年に入ってから、アメリカ人の一人芸で、「腹話術」を公演し、在浜外国人や学生などに大変好評であった。

この「あかいくつ劇場」は、一四七席とアットホームなスケールで、海に面した観光のメッカということもあり、こどもたちのピアノ発表会などにも大変人気がある。

### ③ 情報コーナー：ビデオディスクなど

「青い目の人形」「横浜の郷土人形」「横浜人形ヨーコ」そして「横浜人形の家誕生」。これは、当館の情報コーナーにあるビデオディスクのプログラムのラインアップである。一本平均五分間で、日本語または英語のどちらかを選択して解説を聞くことができる。

その中で、「横浜の郷土人形」をここで紹介する。横浜にも郷土人形がある。関東大震災の震災復興事業の一つとして、人形づくりをするための専門委員会が横浜市の中におかれ、そこで生まれてきたのが「横浜開港人形」である。当時、南区に三三軒ほど人形作りをする店があり、開港当時の来日外国人の風俗を模した一二種類の土製人形は、戦前は海外に輸出するまでに成長したとのことである。

こうした映像の他に、国内の資料館・博物館にある人形情報や、分野別の人形関係図書情報などを検索できる文字情報もコンピュータで知ることができる。

### ④ 国際ひなまつり

産貿センターに人形の家ができて、まもなくはじめた「国際ひなまつり」。ひな人形の段飾りをセットして、在浜の外国人や日本人の子どもたちに日本語と英語でやさしく説明。そのあと、生の人形劇を観覧し、最後は、一緒に歌ったり踊ったり。

子どもの時から、直接的な国際親善の芽を育てたいとの願いから、新しい人形の家でもこれ

を続け発展させている。

### ⑤ 館外活動：人形劇キャラバンと人形貸出

横浜人形の家では、開館記念に札幌市の「こぐま座」に呼びかけ、札幌市民の人形劇使節が横浜へ来て、特別公演をしたが、今年は、横浜から市民の人形劇が札幌へ出かけ、札幌まつりに特別公演を行った。

また、市内の郊外区に「人形劇キャラバン」を派遣したり、時には当館の人形を貸出して、館外における展示についても積極的に対応している。

### 五 来館者の状況：周辺への波及効果

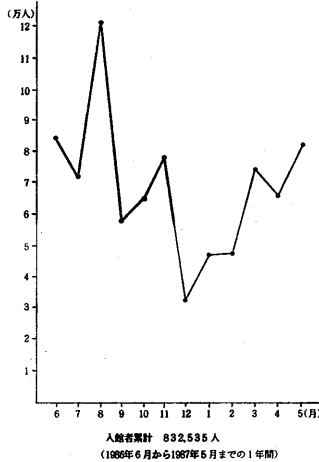
多種多様な文化施設・イベントがはらんとしている大都市の中で、新しい観光文化施設、横浜人形の家は市民や観光客にとって、どのような魅力を感じ、足を運んでくれるであろうか。人形自身の持つ魅力・展示方法・人形に関する情報の質量、施設のロケーション、PRその他たくさんの要因の組み合わせの中で横浜人形の家が開館されたが、初年度は予想外の多数の来館者でにぎわっている。

### ① 来館者数

写真一五 「国際ひなまつり」に参加した各国の人形ミッション



図一 月別入館者数

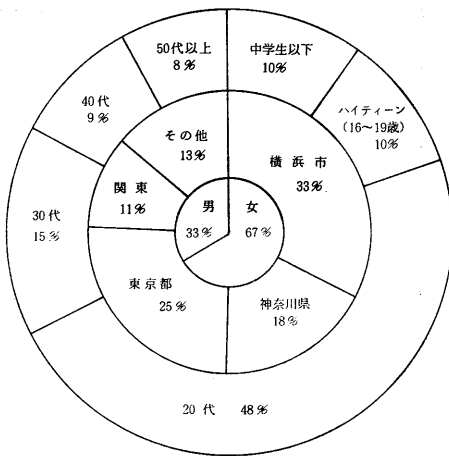


③ 周辺施設への影響  
山下公園から元町へかけての観光客のルートが、フランス橋と横浜人形の家ができたことにより、変わってきたことは事実で、人通りは増大した。

② アンケート調査の結果  
一九八六年七月の調査の結果では、二十代の市外の女性がマジョリティであった(図一と)。

昨年六月一日の開館以来一年間で八三万人を超える入館者があった。これは、市内の公設市民利用施設で最も多い。  
なお、その内訳をみると、  
大人 八六% 子ども 一四%  
個人 八〇% 団体 二〇%

図二 来館者アンケート調査結果



④ 入館者感想ノートより  
○それぞれの国の人形らしい表情でよかった。  
○人形の衣裳を楽しくみた。  
○人形の素材の多様さにおどろいた。

なお、横浜人形の家には、資料館の類としては稀に見るたくさん入館者があったが、これが周辺の施設等へどのような波及効果をもたらしているであろうか。表一によれば、人形の家開館の前一〇カ月に対し、開館後一〇カ月の周辺施設の入場者数伸び率は、平均で二六・七%に達しており、市内の延観光客数の伸び率(一九八五年に対する一九八六年の伸び率)一三・二%に比し、二倍強となっている。

表一 横浜人形の家の開館前・後における周辺施設の利用者数

	開館前	開館後	開館後 開館前
	1985年6月— 1986年3月	1986年6月— 1987年3月	
大佛次郎記念館	83,779人	83,600人	99.8%
横浜開港資料館	43,583人	63,713人	146.2%
横浜海洋科学博物館	405,023人	447,067人	110.4%
マリインタワー	530,773人	597,752人	112.6%
氷川丸	442,453人	424,699人	96.0%
港内遊覧船	366,318人	715,484人	195.3%
		平均	126.7%

○ひな道具はすばらしい。日本人の手先の器用に驚いた。  
○かわいくない人形が多いので、もっとかわいい人形を並べてほしい。  
○情報コーナーも利用させてもらった。  
○ビデオがとても楽しかった。  
○「青い目の人形」についてよくわかった。  
○もっと広いスペースだと見やすい。  
○展示が混みすぎている。もう少しゆとりをもつて。  
○横浜へ来て、人形の家へ来てよかった。  
○動く人形・ろう人形・現代の人形もあるとよ

い。

○子どもから大人までたのしめる。

○人形たちが仕事の疲れをいやしてくれた。

○現代の人形を集めてみてはどうか。

○今度はお母さんと一緒に来たい。

六——今後の課題・提言：深める・広げる

未開拓の部分の多い「人形」をテーマとした当館は、今後その内容や活動を深め、広げていく必要がある。

### ①—魅力ある展示

一つの試みとして、パリのブローニュの森の中にある人形の家や、モナコの人形館の一部にみられるような、生活や物語の一部分を再現するような展示はどうであろう。立地上から狭い展示スペースという制約やテーマを何にするかという論議を必要とするが、印象的な展示になると思われる。

### ②—活きた博物館：創作人形の世界

人形をできるだけ体系化し、その歴史を研究していくと、過去の評価が一応定まった人形を追い求め、それ以外は目に入らない場合もある。人形は、人間の生活や情念を表現するものであるとすれば、過去ばかりでなく現在あるいは未来に向かって自分を表現する創作人形の世界を忘れることはできない。

自分のエネルギーを傾注して作り出すクリエイティブな人形を作る多くの人たちと接点を広げ、深めていく中で新しい展示やイベントの展開が見えてくると思われる。

### ③—市民参加の人形劇

人形劇を演ずる側を支えているグループに数多くのアマチュア人形劇団がある。お母さん方や学生あるいは社会人が、自分の時間をなんとか作り出し、手に汗して人形劇活動あるいは児童文化活動を展開している。

当館の「あかいくつ劇場」が核となつて、人形劇の上演の場が増えたというばかりではな

く、上演する市民グループ相互の交流と人形劇の魅力の追究、技術の研さんを図っていくきっかけとなるようにしていきたい。

### ④—積極的に館外交流を図る

展示用の人形の貸出し、あるいは人形劇キャラバン等の手法で、市内の郊区をはじめ積極的なイベント展開が今後重要度を増す。

さらに、同じ人形劇場をもつ札幌市等との都市間交流を継続的に進めていくべきであろう。

最後になつたが、新しい横浜の名所となつた横浜人形の家には、人形に関するさまざまな問合せや情報が集積しつつある。これらは市内からだけでなく、国内あるいは海外からも寄せられている。

アメリカやドイツには、全国あるいは全世界の名を冠した人形クラブの連盟もできている。いつの日か、コンベンションシティ横浜で、人形愛好者・研究者による「人形国際会議」が実現するかも知れない。

△経済局消費経済課長・前横浜人形の家部長▽